

令和4年度 新見高等学校(南校地) 具体的計画

学校経営目標	1 校地間・学科間・学校と地域や家庭の連携・協働をふまえた効率的な教育活動の推進 特に校地間・学科間の「融合」に向けた取組の推進 2 知識・技能の確実な習得と、思考力・判断力・表現力等を育む効果的な教科指導の工夫 特に1人1台端末の有効な活用方法の研究 3 主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成 特に地域連携活動の継続発展 4 本校教育活動とその魅力を内外に伝える広報の展開 特に「新見高校広報全体計画」に基づいた広報活動の継続発展										
	番号	分掌	具体的計画と取組	現状分析	今年度の達成基準【評価指標】	中間評価		最終評価			
						達成状況・今後の対応	評価	達成状況	評価	結果の分析及び改善方針	総合評価
1	教務課		新教育課程のより効果的な運用。 履修の手引きを活用した各パッケージ選択時の準備と実施。1年次、進路課と相談し、生徒が3年間を見通したパッケージ選択をできるよう準備する。同時に、2年次、3年次での各教科における授業展開並びに講座数を予測し、全ての教科でも見通しを持った教育課程運用ができるよう進める。	昨年度新教育課程が完成し、運用年度にあたるが、パッケージ選択に向けての準備、2年次、3年次の講座展開の見直しなどは十分に行われていない。	新教育課程の運用に合わせ ① 授業ガイドが完成する ② 科目選択用資料を更新する ③ 2年次、3年次の授業展開、講座数の見直しを立てる A・・・①②③ B・・・①② C・・・①	①、②は完了。③について、第1回1年次パッケージ、科目選択調査を終了後、各パッケージ希望者数をもとに、クラス編成、開講講座数をシミュレーションし、全ての教科、また、全ての教員が見通しを持った教育課程運用が出来るよう進める。	B	①、②は完了。③について、2学期に教育課程委員会を経て普通科としての方針を確認した上で、2年次におけるクラス編成並びに授業展開と講座数の予定を立てることができた。但し、3年次についてはクラス編成は現段階では未定。それにより講座数等も不確定ではあるが、授業展開については各教科で検討できた。	A	達成状況の内容について、完了できなかった3年次のクラス編成を次年度の早い時期に検討、決定し、各教科の授業展開と講座数の決定をした上で、見直しを持った教育課程運用ができるよう進めたい。	A
	教務課		校地統合に向け、教務課関係書類等の南北で異なるものを洗い出し、統一化を図る。内規については、令和5年度に向けてのマイナーチェンジを計画的に行う。	昨年度内規を全面改定し、校地統合に向けて大きな一歩を進めることができたが、令和5年度用内規へのマイナーチェンジが必要。また、教務関係の書類(業務指示など)について、現在南北異なるものを統一化する必要がある。	令和6年度校地統合に向けて ①令和5年度用内規の完成 ②南北で異なる教務関係書類等の洗い出し ③②について統一化、あるいは令和6年度に向けての統一スケジュールの作成 A:①②③ B:①② C:①	①については、各担当へ連絡済み、年内に必要な協議を終え、年度内に完成予定。 ②、③は完了。スケジュールに沿って統一化を進めている。	B	①については3月までに完了予定。 ②、③は完了。	A	予定したことは概ね完了した。スケジュールを作成した教務関係書類等の統一化は引き続きスケジュールに沿って進めたい。また、校地統合に向け、すり合わせが必要な案件が新たに出ると予測されるので、その都度スケジュールを作成しながら統一化を進めていきたい。	
	進路指導課		両校地の生徒理解の一助として、両校地の授業参観を行う。特に、6月は各教員所属校地(本務校)の授業参観を行い、11月は他校地の授業参観を行う。	昨年度は6月・11月ともに他校地の授業参観を通して、他校地の生徒理解の充実を図ることができた。	授業参観をした教員の割合で評価する。 6月の授業参観では、 A B基準に加え、校内チーム制以外の教員の授業参観もできた B 校内チーム制内の教員の授業参観はできた教員の割合が100% C B基準未滿 11月の授業参観では、 A 他校地の授業参観ができた教員の割合が90%以上 B 他校地の授業参観ができた教員の割合が80%以上 C B基準未滿	6月の授業参観では、校内チーム制内の教員の授業は意識的に参観されていた。 11月の授業参観では、他校地の授業参観を積極的に行っていききたい。	C	11月の授業参観では、他校地の参観ができた先生方もいらした。	C	OJT通信No.7「授業を観よう」、「授業を探究する学校」(令和4年9月発行 岡山県総合教育センター)リーフレットに掲載されている、【授業を観合い語り合う学校風土の醸成】を目指して、IGTを活用して効率的・効果的に授業参観・協議をしていきたい。具体的には、授業を録画し、共有ドライブ上に保存したものを観合ったり、Zoom等で授業を配信し、校地を越えた職員室や他教室等から授業を遠隔で観合ったりしていきたい。	
	進路指導課		『進路の手引き』共通部分と各年次「面談シート」を修正し、普通科各年次生徒用の『進路の手引き』を完成させ、個人面談・三者面談等で活用する。	昨年度、普通科各年次生徒用の『進路の手引き』共通部分を作成することができた。『進路の手引き』を完成させ、個人面談・三者面談等で活用する。 昨年度末の学校自己評価アンケート「普通科生徒用の『進路指導の手引き』を作成し、主体的に行動できる生徒の育成を図り、家庭への情報提供や連携に活用している。」項目について、生徒70.8%、保護者56.4%が肯定的回答。	学校自己評価アンケート「普通科生徒用の『進路指導の手引き』を活用し、主体的に行動できる生徒の育成を図り、家庭への情報提供や連携を推進している。」項目について、 A 生徒80%・保護者65%以上が肯定的回答 B 生徒75%・保護者60%以上が肯定的回答 C B基準未滿	年度当初、各年次生徒用『進路指導の手引き』を完成させ、個人面談・三者面談等で活用している。 年間を通して、活用を推進していきたい。	B	生徒72.6%、保護者65.6%が肯定的回答であった。	B	昨年度と比較すると、生徒1.8pt、保護者9.2pt上昇した。次年度も引き続き、活用を推進していきたい。	
	厚生課		「心肺蘇生法講習会」「芸術鑑賞会」「『校誌にいま』の編集」など、南北共同で行う行事を、互いによく連携し円滑に実施する。	それぞれの校地で、漏漏なく業務を行っているが、十分連携できていない面もある。	「心肺蘇生法講習会」「芸術鑑賞会」「『校誌にいま』の編集」において、 A よく連携し円滑に実施できた B 連携はできたが円滑には実施できなかった C 連携もできず円滑な実施もできなかった	5月17日(火)に北校地において、「教員対象心肺蘇生法講習会」を、7月1日(金)に南校地において、「生徒対象心肺蘇生法講習会」を実施した。双方において、両校地がよく連携し円滑に実施できた。「芸術鑑賞会」は10月18日実施予定、「『校誌にいま』の編集」は10月末開始予定である。	A	コロナの影響が心配されたが、「芸術鑑賞会」が10月18日に予定どおり実施された。北校地の先生方も連携・協力ができ、円滑に運営できた。公演(演劇)の内容も、南北とも好評であった。「『校誌にいま』の編集」については2月末発行に向けて編集作業が順調に進んでいるところである。	A	来年度も厚生課が主になって行う行事が複数あるが、今年度同様円滑に実施していきたい。	
	2年次		総合的な探究の時間において、iPadを活用して意見や考えを整理し、プレゼンテーションを行う活動を取り入れ、表現力を育成する。	1年次ではインターネットでの情報収集や、Jam boardを用いた考えのやりとりを行ったが、十分な発表の機会を持つことができなかった。	GT振り返りにおいて、「iPadを用いて調べたことや自分の意見を効果的に伝えることができた」肯定的評価が80%以上・・・A 60%以上・・・B 59%以下・・・C	実施途中。9月14日個人研究発表、1月25日、27日グループ発表の予定。	—	1月25日、27日にグループ発表会を行い、グループ発表会後の7限に振り返りアンケートを実施したところ、肯定的評価は97.2%であった。	A	個人探究、グループ探究共に、調べたり発表したりする場面で積極的にiPadを活用できた。	

国語科	1・2年次生について、一人一台端末を活用した実践研究を行うとともに、その事例について共有・検討する。3年次生について、Google-Workspace for Educationを活用した実践研究を行うとともに、その事例について共有・検討する。	現在、iPadの辞書アプリ・国語便覧(資料集)の活用には取り組んでいる。そのより効果的な実践方法と、その他の活用法について科内で共有・検討し、端末の活用を充実させる必要がある。	A: 国語科で事例を8件以上共有・検討できた。 B: 国語科で事例を4〜7件共有・検討できた。 C: 国語科で事例を1〜3件共有・検討できた。	9月現在、活用の事例は5件共有できている。	B	1月現在、活用の事例は6件共有できている。 ・デジタル教材の配布 ・クラスルームでの板書の共有 ・クラスルームで事前課題の提示 ・班活動でのジャムボードの活用 ・スピーチ発表の相互評価でのForms・スプレッドシートの活用 ・意見の共有でのForms・スプレッドシートの活用	B	共有したものを次年度以降の授業づくりに活かしていく。
数学科	教員・生徒のiPad導入に併せて、教科内でiPadやGoogle-Workspace for Education、デジタル教科書等の効果的な活用を検討・実施する。	個人での活用は行っているものもあるが、教科全体としてiPad等を活用した取組は行っていない。教科としてどのような取組がどのような場面で効果的であるのかを検証することができていない。	○事例を共有する会を学期に1回ずつ行い、7月、1月の授業評価アンケートにおいて、項目「ICT機器の使い方に工夫がある」に対し非常に、だいたいと回答する割合がA: 9割以上 B: 7割以上 C: B以下	各学年でiPad等を活用した授業展開を行っている。7月の授業評価アンケートでは9割以上が「ICT機器の使い方に工夫がある」と解答している。今後も前期の授業評価アンケートや取り組みをもとに、数学科で情報共有を行っていく。	A	各学年でiPad等を活用した授業展開を行っている。12月の授業評価アンケートでは97.3%が「ICT機器の使い方に工夫がある」と解答している。	A	グラフや図形など視覚の情報を補助したり、授業動画を配信したりと、ICTを活用できた。問題演習の解説等も生徒のデジタル化した解答にiPadを用いて添削するなど、今年度は活用の幅を広げることができた。
理科	一、二年次生において、一人一台端末を日常的に活用した授業スタイルの確立を目指す。	現在実施している取り組みとしては、考査の解答・解説や授業の板書のClassroomへのアップロードによる自主学習の補助が挙げられる。	A … 一人一台端末を用いた日常的な取り組みを、新たに5つ以上実施するようになった。 B … 新たな取り組みが2つ以上4つ以下の場合。 C … 新たな取り組みが1つ以下の場合。	現段階では各科目にて以下のような取り組みを実施した。 物理…すべての授業において板書をiPadへの書き込み・投影に置き換えた。 化学…生徒にiPad上でシミュレーションさせた。	B	中間評価で述べた2つの取り組みに加えて、以下の取り組みも実施した。 物理…出張時の動画による自主学習 化学…Quizlet、授業動画の配信 生物…教材のiPad上での参照、個人レポートの作成・提出・共有	A	効果があったものについては継続していく。 次年度は生徒が活用する場面を設定していきたい。
英語科	速読教材や指導法を授業で取り入れ、共通テストのリーディングや大学個別試験の読解力向上を図る。	精読を中心に授業を進めているが、速読力の向上という面では、まだどの学年も十分な指導ができていない。	進研模試の読解問題(2題)の1〜3学年の平均点において A 全国平均点以上 B 全国平均−3 C それ以下	7月進研模試の読解問題の結果 1年 校内:9.0 全国平均点:13.1 2年 校内:11.5 全国平均点:12.7 3年 校内:22.2 全国平均点:21.3 2、3年生はおおむね良好であった。1年は上位層を伸ばす必要がある	B	11月進研記述(3年生は10月記述)の読解問題の結果 1年生 11.9 全国平均点 15.1 2年生 12.3 全国平均点 13.4 3年生 15.3 全国平均点 17.5 1年生は全国平均との差3.1と前回に比べ改善された。	B	各学年、順調に読解力は伸びている。それぞれの学年で効果的な指導ができていた結果である。今後さらに基礎が定着していない生徒に手当てしつつも上位層を伸ばす指導法も確立していきたい。
情報科	ICTの効果的な活用を通して、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。1学期にワード、2学期にエクセル・プログラミング、3学期にパワーポイント等を活用しながら、自分の考えや情報を他者にわかりやすく伝える活動をさせる。	自分の考えを他者と共有しながら、よりよい考え方を身に付ける必要がある。パソコン利用についてのアンケートを実施した結果、使ったことがない・不安であると回答した割合は、ワード78%、エクセル71%、パワーポイント56%であった。	生徒アンケートを実施し、思考力・判断力・表現力等を身に付けることができた と回答した生徒の割合で評価する。 A 8割以上が肯定的回答 B 7割以上が肯定的回答 C B基準未満	「非常に」「だいたい」を合わせた肯定的回答は94.9%であった。	A	「非常に」「だいたい」を合わせた肯定的回答は95.7%であった。	A	次年度も引き続き、思考力・判断力・表現力等を伸ばしていきたい。
保健体育科	ICT機器を効果的に活用し、リフレクション映像による課題の即時フィードバックを行うことや、クラスルームを活用し、動きの動画を事前に視聴させたり、フォームによるふり返りを行わせることで指導の充実を図る。また、映像を評価材料としても活用し、継続的かつ客観的根拠のある評価の充実に取り組む。そのため、体育科全員(常勤3名)が、リフレクション映像の撮影を行い、教科指導及び評価の工夫を図る。	ICT機器を活用し主体的な学習を促す指導を充実させるとともに、客観性や継続性のある評価の工夫が必要である。	【指標と実施期間】 1年男子…9月〜11月(仮)、1年女子…11月〜1月、2年…5月〜12月 3年…10月〜1月 A…3名取り組んだ。 B…2名のみ。 C…1名のみ。	1年男子(器械運動)、1年女子(バレーボール)の授業においてリフレクション映像を活用しての授業展開ができていた。2年生においては指導用のパワーポイントの提示やクラスルームでの授業連絡は行っているが、リフレクション映像やフィードバックとしての活用が未実施である。2学期以降で効果的な活用を検討していく。3年については、選択制授業後期(10月〜1月)にかけて活用していく予定である。	B	中間評価で述べた取り組みに加えて、2学期末では1年生〜3年生まですべての学年で映像資料を根拠とした評価を行うことができた。映像データがあることで毎時間の授業内評価だけでなく、単元当初の技能段階との比較が可能になり、系統的な評価が行えた。 2年生については、3学期の選択制授業内でiPadを活用した授業計画を立てている。	A	映像データに基づいた評価を取り入れることで、より客観的で系統的な評価を行うことができた。授業内での活用法については、引き続き研究を行っていき、指導の充実にも繋げていきたい。 課題としては、教員が活用する場面が比較的1多かったため、生徒が主体となって活用出来る場面を増やしていきたい。
厚生課	図書委員会が活性化や効果的な広報活動により生徒の図書館利用を促進し、図書貸出冊数の増加を図る。	「R元年度220冊→R2年度1196冊→R3年度1440冊」とおり、貸出冊数が着実に増加している。	貸し出した本の冊数が、前年度比で A 約4%増加(1500冊) B 昨年度並み程度(約1400冊) C 昨年度より大きく減少	貸し出した本の冊数は、9月16日現在で「832冊」であった。このペースで貸出ができるかと仮定すると、年度末には1536冊の貸出になるという計算になる。	A	貸し出した本の冊数は、1月16日現在で「1305冊」であった。このペースで貸出ができるかと仮定すると、年度末には「1650冊」の貸出になるという計算になる。	A	以下のような事柄が、貸出冊数増加の要因になっていると思われる。 ①「ライブラリーニュース」の発行、文化祭での展示、「芸術鑑賞会」での司会など、図書委員が活躍する場が複数あったこと。 ②図書館が授業で活用されていること。 ③委員会活動全般において、書籍が活用されたこと。
1年次	総合的な探究の時間において、小論文・ディベート・スピーチ活動、主権者教育を計画的に実施し、生徒の思考力・判断力・表現力等を育成する。	昨年度実施の反省を踏まえ、各種取組をさらに充実したものにしていく必要がある。	生徒にアンケートを実施し、総合的な探究の時間を通して、思考力・判断力・表現力等が向上したと回答した生徒の割合で評価する。 A 8割以上が肯定的回答 B 7割以上が肯定的回答 C B基準未満	小論文の振り返り及びディベート・スピーチ等の活動は、10月以降実施予定である。	一	生徒の自己評価において、総探の時間を使って次の力が向上したかという問いに対し、「自分の意見を持つ力」95.1%、「自分の意見を深めたり整理したりする力」91.4%、「他者の意見を受け取る力」92.6%、「他者に自分の考えを分かりやすく伝える力」82.7%、「他者に自分の考えを説得力をもって伝える力」79.6%の生徒が、向上したと回答(各問の平均88.3%)したため、達成されたと判断する。	A	小論文学習・模試の実施(効果的な取組になるよう模試の事前指導を導入)。ディベートテーマ「小学校の教科書を全面的にデジタル教科書に変更するべきか」でICTの活用や使用法を題材に、探究活動の基盤となる情報収集、整理分析、まとめ表現の力を培うことができた。今年度から個人探究の一部を1年次のプログラムに繰り上げたため、2年次には更に充実した探究活動を実施させたい。
芸術科	日常的にiPadを授業で活用する(模範提示等)。また、端末利用により学習効果が高まる活動について授業研究を深め、実践し、生徒が創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを味わったりすることができるようにする。	昨年度実施内容をふまえ、端末利用内容をブラッシュアップする。特に効果的と考えられる授業については入念に授業研究し、実践する。	生徒にアンケートを実施し、端末利用した授業について、芸術や芸術文化と豊かに関わる力がついたと回答した生徒の割合で評価する。 A 8割以上が肯定的回答 B 7割以上が肯定的回答 C B基準未満	日常的に端末を授業で活用、授業研究ともできている。アンケートは年度後半に実施予定。	B	年間を通して日常的に端末を授業で活用、授業研究ともできた。アンケートは1月末〜2月初めに実施予定	B	端末利用については、十分に行うことができるようになった。今後は年間指導計画や各単元の学習内容と関連させ、より効果的な活用を研究・実施していきたい。

3	生徒課	委員会活動のさらなる活性化によって、主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒の育成を図る。委員会によるHR・集会での呼びかけをこれまで以上にすることによって、学校生活の向上に向けた啓発活動を行う。	各委員会とも活動は行われていて、一定の成果を上げている。しかし、すべての活動が生徒全体に目に見える形で、取組の目的や成果が明らかにされているとは言えない。	委員会活動に関する全校アンケートを行う。「委員会活動が活発に行われている」と回答する生徒の意見がA:95%以上 B:80%以上 C:Bに満たない	前年度まで、実施がされていなかった行事に対しても、生徒会の生徒を中心とし、各委員会と連携しながら計画的に行事を進めることができた。今後も行事に関わらず日頃の啓発活動にも力が入られるように継続的に生徒に指導していく。	B	学校自己評価アンケートにおいて「生徒会・各種委員会の学校生活改善に向けた啓発活動を通して社会に貢献できる力を育成しているかどうか」の項目に対して否定的な回答は2割以下であった。別途委員会活動に関する全校アンケートも行う予定である。	B	引き続き、目標として設定するとともに、交通委員による交通運動の活動など今年度新たに実施されているものもあったのでさらに委員会活動が活性化するように考えていきたい。
	地理歴史・公民科	生徒にとってわかりやすい授業と効果的な発問を行うためにICT機器を有効に活用し、確かな学力の定着を目指す。また、生徒の思考力を向上させ、問題解決力を伸ばす課題等を提示する。	生徒の教科に対する姿勢は、地理歴史・公民科の目指す、思考・探究的な学習とはほど遠く、暗記科目的な側面を強く印象付けたものとなっている。	生徒対象の授業アンケートを実施し、「地理歴史・公民科の授業を通して、思考力および問題解決力が向上した」と回答した生徒の割合で評価する。 A:80%以上が肯定的回答 B:60%以上が肯定的回答 C:Bの基準に満たない	地理歴史・公民科すべての科目においてICT機器を有効に活用することができていると感じられる。生徒対象の授業アンケートについては、3学期に実施する予定である。	B	年間を通して地理歴史・公民科すべての科目でICT機器を有効に活用することができた。また、普段の授業から生徒の思考を促す学習活動を取り入れるなど様々な事象に当事者意識をもつための工夫を施した。生徒対象の授業アンケートは2月初旬に実施予定である。	B	ICT機器を活用した授業については、すべての科目で十分に行うことができた。しかし、ICT機器を活用することと生徒の思考力・問題解決力の向上との結びつきは薄いと感じられるため、より効果的な活用方法の研究に努めたい。
	3年次	主体的に社会に貢献しようとする使命感と実力を兼ね備えた生徒を育成するとともに、主権者教育、MFM、ボランティア活動等、本人の強みを生かしながら、適切な指導を行い、進路実現へつなげる。	1年次から各教科・総合的な探究の時間等を通して、思考力・判断力・表現力等や主体的に社会に貢献しようとする姿勢を養ってきた。また、総合型選抜・学校推薦型選抜に対する指導の重要性が増している。昨年度、総合型選抜・学校推薦型選抜受験者のべ49名のうち、36名が合格。合格率は73.5%であった。国公立大学総合型選抜・学校推薦型選抜に限れば、受験者12名のうち、10名が合格。	総合型選抜・学校推薦型選抜受験者のうちA:3分の2以上の生徒が合格 B:2分の1以上の生徒が合格 C:B未満の生徒が合格	現在28名の生徒が総合型選抜・学校推薦型選抜での受験を考え、または受験をしている。うち2名は合格をいただいている。生徒たちの第一志望に向けて学年の枠を超えて他の先生方の協力を得ながら、生徒たちの進路を叶えていきたい。	—	現段(1月24日)で32名の生徒が総合型選抜・学校推薦型選抜での受験し、合格は25名であった。合格率は78%である。うち国公立は、10名が受験し、7名が合格している。今後、国公立の共通テスト有の総合型・学校推薦型選抜の受験者が、7名いる。今後も3年次団中心に指導を頑張っていきたい。目標の3分の2以上の生徒が合格しているため、Aと評価する。	A	例年に比べて、総合型選抜・学校推薦型選抜での受験者の数が少なかった。16期生は、集団として学力で合格を勝ち取りたいという生徒が多かった。この経験を今後に生かしたい。
	地域連携広報室	専門科では、中学校への出前授業など昨年度再開できた地域と連携した活動を可能な限り継続発展させる。普通科では、引き続き新見市学校連携コーディネーターと連携・協働しながら、主権者教育を中心とした総合的な探究の時間の取組を発展させる。いずれの取組においても一部の生徒の取組にならないように工夫する。	感染症対策をしながら、多くの地域連携活動を相次いで再開することができた。中学校への出前授業や販売実習、主権者教育など外部からの評価は非常に高い。担当した生徒達の地域に貢献しようとする使命感と実力の育成に多大な効果をもたらしている。一方で携わる生徒に限られており、生徒全体の力とはなりにくい側面もある。令和3年度の学校自己評価アンケートの集計結果の肯定的評価は、生徒・保護者・教職員の平均について、北校地は89%、南校地は84%であった。	年度末の学校自己評価アンケートの地域連携に関する項目において、次のように評価する。 A:肯定的評価が80%以上 B:肯定的評価が70%以上80%未満 C:肯定的評価が70%未満	専門科では、総合ビジネス科2年次生の販売実習など、計画されている活動が実施できた。今後も出前授業等を行っていく予定である。また、地域連携広報室が窓口となり2年次生を対象に講演会を開催することができた。普通科では、地元の方による講演会を4講座開くことができた。今後は主権者教育に関する取り組みが計画されている。	—	令和4年度の学校自己評価アンケートの集計結果の肯定的評価は、生徒・保護者・教職員の平均について、北校地は84%、南校地は90%であった。詳細については、専門科の肯定的評価は、生徒81.7%、保護者78.3%、教職員91.3%であった。普通科の肯定的評価は、生徒89.4%、保護者80.5%、教職員100%であった。	A	学校自己評価アンケートで専門科・普通科ともに80%を超す肯定的評価を得たことは評価できる。また、感染症対策をしながら昨年度よりも多くの地域と連携した活動「いこう交流事業」を行うことができた。今後の課題としては、多くの生徒が関わられるよう工夫したが、出前授業は全員が参加できないため、一部の生徒だけでなく全体の生徒の力を高めるさらなる工夫が必要である。
4	地域連携広報室	新見高校広報全体計画に基づいて、広報活動を継続発展していく。	第2回オープンスクールや学校新聞を刷新したり、市報にいみ7月号にリーフレットを挟みこんだり、7月・11月に中学生保護者に対する説明会を実施するなど、広報活動の全体計画を実現できた。	11月に振り返りを行い、最終的には学校自己評価アンケートも参考にして、次のように評価する。 A:広報計画が実現できた。 B:広報計画が概ね実現できた。 C:広報計画があまり実現できなかった。	学校案内、学校新聞、高校説明会、オープンスクール、中高連絡会、市報にいみ、学校紹介動画作成等、広報全体計画で掲げた事項について実施することができた。11月に1年間を振り返り、成果・課題を検証し、次年度の広報全体計画を策定していきたい。	—	令和4年度の学校自己評価アンケートの集計結果の肯定的評価は、生徒・保護者・教職員の平均について、北校地は74%、南校地は81%であった。予定していた広報全体計画で掲げた事項はすべて実施することができた。さらに、今年度は県の協力を得て、学校紹介動画を作成し、様々な場面でPRし、活用することができた。	A	11月に振り返りをおこない、それを基に令和5年度の広報全体計画を策定し、合同職員会議での了承を得た。振り返り、次年度へ向け改善点もあげられたので、次年度へ向けて具体的な準備をすすめていきたい。